

Tokyo Institute

2026年度

for 理論言語学講座要項

東京言語研究所

Advanced Studies of Language

開講期間

前期 ● 2026年 5月～7月
夏期集中 ● 2026年 7月～8月
後期 ● 2026年10月～12月
秋期集中 ● 2026年10月

申込期間

前期 ● 2026年 3月27日(金)～5月1日(金)
夏期集中 ● 2026年 6月26日(金)～7月27日(月)
後期 ● 2026年 8月21日(金)～9月28日(月)
秋期集中 ● 2026年 8月21日(金)～9月28日(月)



2026年度 理論言語学講座要項 目次

運営委員長挨拶……………	P3
講座申込方法……………	P4
講義情報……………	P5 ~ 6
受講規定……………	P7
講座紹介……………	P8 ~ 9
時間割……………	P10
春期講座のご案内……………	P11
書籍のご案内……………	P12
理論言語学講座講義概要……………	P13 ~ 30

運営委員・顧問 (2026年4月~/50音順)

運営委員長 ● 西村 義樹 (東京大学教授)

運営委員 ● 大堀 壽夫 (東京大学名誉教授)
川村 大 (東京外国語大学教授)
窪菌 晴夫 (国立国語研究所名誉教授)
小柳 智一 (聖心女子大学教授)
酒井 智宏 (早稲田大学教授)
嶋田 珠巳 (明海大学教授)
杉崎 鈺司 (関西学院大学教授)
高橋 将一 (青山学院大学教授)
長屋 尚典 (東京大学准教授)
平岩 健 (明治学院大学教授)
広瀬 友紀 (東京大学教授)
松井 智子 (中央大学教授)

顧問 ● 池上 嘉彦 (東京大学名誉教授/昭和女子大学名誉教授)
池内 正幸 (聖徳大学教授)
今西 典子 (東京大学名誉教授)
上野 善道 (東京大学名誉教授)
大津由紀雄 (関西大学客員教授/慶應義塾大学名誉教授)
尾上 圭介 (東京大学名誉教授)
梶田 優 (上智大学名誉教授)
杉岡 洋子 (慶應義塾大学名誉教授)
西山 佑司 (慶應義塾大学名誉教授)

運営委員長挨拶

運営委員長挨拶

東京言語研究所は1966年3月、故服部四郎博士（東京大学教授、当時）の構想をもとに開設されました。当時の日本には、大学システムの制約上、満足いく言語学の教育体制がほとんど存在しないことに強い危機感を持たれた服部博士は、大学の枠を超えて、才能や適性のある人々に言語学の重要性和面白さを認識させる「言語学の塾」を創設しようと考えられました。

その構想に沿って、研究誌や月刊誌の刊行、公開講座や国際セミナーの開催など数々の企画が実行されました。その中核に位置づけられていたのが、1966年5月以来、休むことなく毎年開講されてきた理論言語学講座です。これは、第一級の教授陣を配した、体系的なカリキュラムからなる言語科学専門のコースです。1960年代と今日とでは、言語学環境は大きく変わりましたが「言語の理論的研究に裏打ちされた真の言語学基礎教育をおこなう」という講座の目的・理念は今でも変わっておりません。

その一方で、理論言語学講座も21世紀の言語科学が向かう先を見据えて、新しいカリキュラムを構築し、人々の現代的要請に応えようとしております。2016年に研究所が開設50周年という重要な節目を迎えたのを機に、今後の理論言語学講座のあり方についていろいろ検討を重ね、2017年度から理論言語学講座の開講時間と時間割を大幅に変更いたしました。具体的には、毎日2時限（各90分）x 11週という時間割から毎日100分の1時限制に変更し、また講座を原則として半期制にしました。1日に受講できる授業数は減りましたが、授業開始時間が6時から7時変わったことに伴い、仕事や大学の授業を終えてからの参加が容易になったのではないかと思います。またこの改革に伴い、理論言語学講座の授業が一部、集中講義として実施されることになりました。また2020年からはオンライン授業が導入され、首都圏以外の方々への受講も可能になりました。

本研究所では、このような形で理論言語学講座の一層の充実を図ると同時に、以下のような多彩な事業を毎年企画しています。

- (i) キックオフである春期講座
- (ii) ことばと関連した諸分野の第一線で活躍されている講師による公開講座
- (iii) 理論言語学の専門家を講師に迎える集中講義
- (iv) 「理論言語学の現代的課題」リレー講義

一人でも多くの方が、言語の本質を問題にする本講座を受講され、ことばについて考えることの楽しさと奥深さを共有していただきたいと思います。多数のご参加をお待ちしております。

東京言語研究所 運営委員長
西村 義樹

2026年度 理論言語学講座受講要項

受講条件

大学教養課程修了程度の一般的な学力があることが望ましいが、学歴、年齢、国籍は問わない。

申込み方法

東京言語研究所ホームページの「受講申込みフォーム」に必要事項を入力し、送信する。

申込期間

1. 前期講座 3月27日(金)～5月1日(金) AM10:00まで
2. 夏期集中講座 6月26日(金)～7月27日(月) AM 10:00まで
3. 後期講座 8月21日(金)～9月28日(月) AM10:00まで
4. 秋期集中講座 8月21日(金)～9月28日(月) AM10:00まで

※期日までに新規生、および継続生ともに申し込みをし、受講料の振込をおこなう。(申し込みと受講料振込の締切は同日)

※「新規生」とは、東京言語研究所で理論言語学講座を初めて受講する方。(春期講座、集中講義、公開講座等は理論言語学講座受講歴には含まれません)

※「継続生」とは、過去6年以内に理論言語学講座を受講した経験のある方。

※受講料の振り込みを確認次第、事務局より受講票をE-mailにてお送りします。講義に関する情報は講義開始の前週木曜日までにお知らせします。

■入学金 11,000 円 (新規生のみ/税込)

■受講料 (税込)

1. 一般

- ・半期1 課目 25,000円
- ・通年1 課目 50,000円

2. 学生・大学院生

- ・半期1 課目 12,500 円
- ・通年1 課目 25,000円

※ 通信教育課程や課目等履修生は一般受講料となります。

■受講料の振込先

1. 郵便振替 00110-8-43537

(名義) 財団法人 ラボ国際交流センター

2. 銀行振込

ゆうちょ銀行 (銀行コード番号9900)
当座貯金 〇一丸店 (ゼロイチキューウ店)
店番 019 口座番号0043537
(名義) 財団法人ラボ国際交流センター
ガイ) ラボコクサイコウリュウセンター

りそな銀行 (銀行コード番号0010)
新都心営業部支店 (支店番号675)
普通預金 口座番号6726641
(名義) 財団法人ラボ国際交流センター
ガイ) ラボコクサイコウリュウセンター

※振込手数料は受講者負担となります。

3. 海外からの送金情報

○BANK ACCOUNT

- ・ Bank Name & Address : Resona Bank, Ltd
Shintoshin Banking Department
6-12-1 Nishi-shinjuku Shinjuku-ku Tokyo Japan
- ・ Account Number : Savings account 6726641
- ・ SWIFT Code : DIWAJPJT
- ・ Nominee : Labo International Exchange Foundation
3-9-2, Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0023 Japan

※海外からの送金の場合も、振込手数料は受講者負担となります。
手数料は、国や銀行によって異なりますので各自で確認ください。

前期／開講式、 およびオンラインガイダンス

- 4月18日(土) 10:00～12:15
 1. ミニ講義「言語研究の面白さ」(仮) 講師：杉岡洋子(慶應義塾大学名誉教授)
 2. 2025年度理論言語学賞授賞式
 3. 理論言語学講座オリエンテーション
(3月27日(金)より東京言語研究所ホームページより申込受付開始)

後期／オンラインガイダンス

- 9月12日(土) 10:00～11:15
 1. ミニ講義「言語研究の面白さ」(仮) 講師：高橋将一(青山学院大学教授)
 2. 理論言語学講座オリエンテーション
(8月21日(金)より東京言語研究所ホームページより申込受付開始)

※ガイダンスは受講を確定された方だけではなく、受講を検討中の方も受けられます。

講義

1. スケジュール

月～金曜、前期10回、後期10回 19:00～20:40 100分 (祝祭日は休講)

2. 日程

	前 期	後 期
月	5/11,18,25,6/1,8,15,22,29,7/6,13	10/5,19,26,11/2,9,16,30,12/7,14,21
火	5/12,19,26,6/2,9,16,23,30,7/7,14	10/6,13,20,27,11/10,17,24,12/1,8
水	5/13,20,27,6/3,10,17,24,7/1,8,15	10/7,14,21,28,11/4,11,18,25,12/2,9
木	5/14,21,28,6/4,11,18,25,7/2,9,16	10/8,15,22,29,11/5,12,19,26,12/3,10
金	5/15,22,29,6/5,12,19,26,7/3,10,17	10/9,16,23,30,11/6,13,20,27,12/4,11
夏期集中	社会言語学(嶋田珠巳) 7月31日(金)～8月2日(日)	
	言語類型論(長屋尚典) 8月7日(金)～9日(日)	
	意味論の基礎(酒井智宏) 8月14日(金)～16日(日)	
秋期集中	認知言語学Ⅱ(西村義樹) 10月10日(土)～12日(祝)	

※夏期集中・秋期集中の講義形式については、対面講座とその様子をリアルタイムで配信するオンライン講義を実施予定です。

3. 対面形式講義実施場所：

新宿区西新宿3丁目9-2 イマス西新宿第一ビル8階 ラボ国際交流センター内
※別会場で開催の場合は、都度ホームページ等で案内します

4. 申込みをされた時点で、以下の事項に同意されたものとします。

- ・全講義オンライン（ZOOM）で配信します。ZOOMのよくあるご質問などをご参照の上、ご自身で設定してください。
※夏期、秋期集中講座については、対面講義とのハイブリッドで実施予定です。
- ・講義はリアルタイムでの受講のみとし、後日配信は行いません。またご自身での講義の録画は禁止とします。
※合理的配慮に基づき、障がい者手帳をお持ちの方に録画を許可する場合があります。
ご希望の場合は、申し込み時に事務局にご連絡ください。
- ・事務局の内部資料として、講義全般を録画します。事務局が録画した講義の公開や二次使用はいたしませんのでご了承ください。
- ・参加者のパソコン等の性能やインターネット回線の状態によっては、正常に受信できない場合があります。接続環境の良好な場所からアクセスをお願いします。オンライン講座に関するパソコン操作やインターネット環境に関する技術的なサポートは行っておりませんので、必ず、事前にご確認ください。
- ・出欠確認を行うため、ZOOMに入室される際にはお申込みの苗字でご参加ください。
- ・講師への質問は、受講講座開講期間中に限ります。
- ・次のような好ましくない行為があった場合は、退出、受講資格を停止もしくは取消することがあります。なお、その場合の受講料の返金は致しません。
 - ①他の受講生の迷惑となる行為や、授業の進行を妨げるような行為を行った場合
 - ②事務局の業務妨害や運営業務の遂行を妨げる行為があり、事務局が不相当と判断する場合。
例) 他の受講生、講師、事務局スタッフへの誹謗、中傷や迷惑行為など
 - ③授業のリンク（招待URL）、および資料などの情報を他者に共有する行為を行った場合。
 - ④個人での録音、録画、スクリーンショットでの撮影を行った場合。

5. 講義資料

- ・講義資料は、原則的にGoogleドライブにアップロードします。
※Googleドライブにアクセスできるよう、無料で入手できる「Googleアカウント（またはアカウント紐づけE-mailアドレス）」をご準備ください。

6. 休講

- ・講師の都合等で休講となる場合があります。休講が発生した場合は、Emailにて連絡します。また、補講を実施します。

7. レポートの提出

- ・講義終了後に、成績評価のためのレポート提出（任意）を受け付けます。各講師が指示する期日までに、指定の方法にてご提出ください。

8. その他、講座開講の要件

講座開始の1週間前（18:00）までに受講生が10名に満たない場合は、特別な理由がある場合を除いて開講しません。

講座が開講されない場合、当該課目の受講予定者にはEmailにて連絡し、納入済の受講料を返金します。

受講規定

- (1) 在籍年限は特に定めない。
- (2) 各年度の受講課目数は原則として制限しない。ただし、講座開始後の受講課目変更は原則として許可しない。
- (3) 1 課目につき、出席回数が講義実施回数の2分の1以上であることを学期末及第とする。
- (4) 学期末の成績評価は、原則として提出されたレポートに基づいておこなう。成績は、A, B, C, Dとし、C以上を及第とする。
- (5) 別途定める基準により、卒業認定された受講者には、本講座の卒業証書を授与する。当該受講生は、以後、随意的講義を担当講師の許可を得て無料で受講することができる。
- (6) 同一課目を2回以上受講した場合には、卒業の際、その最高点をもって当該課目の成績とする。
- (7) 6年連続して出席率が2分の1以上の課目がない場合は除籍する。但し、休学期間は算入しない。
- (8) 休学期間は最長連続6年とする（休学手続きは、予め事務局に備付けの用紙を用いて行うこと）。
- (9) 通年講座で開講後受講回数10回以下で退学することが予め判っている者、ならびに10月以降の受講開始を希望する場合は、担当講師の許可を得て受講を認める。その際の受講料の半額に2,000円プラスしたものにす。すなわち、1課目受講につき、(受講料の半額+税) + 2,000円とする。学生割引対象者も上記に準じる。
- (10) 当研究所の都合以外の理由で、定められた日時までに受講料納入手続きを完了しない場合、および受講手続き終了後の受講課目変更の場合には、特別手数料として1件につき1,000円申し受ける。
- (11) 講座開講後、既納入諸費用は受講講座不成立の場合を除き、原則として返金しない。

[服部四郎賞、理論言語学賞]

- (1) 服部四郎賞は、学術的に優れたと認められる論文（講座のレポート）に対して与えられる。副賞の奨学金は10万円とする。
- (2) 理論言語学賞は講座において成績優秀なものに与えられる。副賞の奨学金は4万円とし、受講者は毎年5人程度をめやすとする。ただし、同一受賞者は同一課目につき3回までとする。また、半期講座の場合の奨学金は2万円とする。学生割引対象者の副賞は、上記の半額とする。

〈卒業要件〉

下の規定を満たした者に本講座の卒業証書を授与する。

規定

- ①通年講義1課目1年を1単位、半年講義1課目半年を0.5単位として、合計12単位を優秀な成績をもって取得すること。
- ②上記12単位の中に、別表（P.8参照）に記すI群からV群の課目群について下に示す単位数を含むこと。
 - I群から1単位以上。
 - II群から2単位以上。
 - III群から1単位以上。
 - IV群から1単位以上。
 - V群から3単位以上。

「優秀な成績」の基準および、個々の単位の認定の詳細に関しては運営委員会で決定する。ただし、上記は2012年度以降に入学した者に対して適用するものであり、2011年度以前に入学した者については別途これを定める。なお、卒業者は本講座の講義を、担当講師の許可を得て、無料で聴講することができる。

〈証明書発行手数料〉

在籍証明書、単位取得証明書、卒業証明書各1通につき1,000円。

講・座・紹・介

講義カテゴリー

講義題目 (担当者)

I 群

言語学概論

前期 / 杉岡洋子他4名・後期 / 小柳智一他4名

言語学入門

II 群

音声学

調音音声学 (中川裕)・実験音声学 (田嶋圭一)

音韻論

形態論・語形成論

形態論・語形成論 (長野明子)

統語論

意味論

意味論の基礎 (酒井智宏)

語用論

語用論の基礎から応用まで (松井智子)

III 群

生成文法入門

生成文法 I 生成文法入門 (高橋将一)

生成文法 II

生成文法 II (平岩健)

生成文法 III

生成文法 III (岸本秀樹)

IV 群

認知言語学入門

認知言語学 I 構文と談話 (大堀壽夫)

認知言語学

認知言語学 II Langacker を読む (西村義樹)

認知言語学 III 『「する」と「なる」の言語学』とその周辺 (池上嘉彦)

V 群

社会言語学

社会言語学 (嶋田珠巳)

史的言語学

英語史入門 (堀田隆一)

心理言語学

心理言語学 母語獲得研究入門 (杉崎鉦司)

日本語文法理論

日本語文法理論 I いわゆるテンス・アスペクトの諸問題 (川村大)

日本語文法理論 II 文法形式の意味分析 (井上優)

日本語文法理論 III 現代日本語の構文 (天野みどり)

言語学特殊講義

言語哲学 (峯島宏次)

言語類型論 形態統語論 (長屋尚典)

語順選好の認知脳科学 (小泉政利)

言語学特殊研究

理論言語学講座は、2026年度も、広い研究領域について数多くの課目を開講しました。各課目の詳細は担当講師による概要をお読みいただくとして、ここでは理論言語学講座全体について鳥瞰いたします。

p8の表のⅠ～Ⅴ群の区別は、東京言語研究所が定めた言語学のカテゴリー区分です。2026年度は全体で、前期と後期各8課目、通年2課目、夏期集中3課目、秋期集中1課目の計22の課目を用意しました。Ⅰ群の課目は、言語学を初めて学ばれる方や、言語研究の諸分野を万遍なく学びたいという方向けに開講するもので、今年度は言語学概論(前期+後期)を設定しました。言語学概論は10名の講師がそれぞれ専門の分野を2回ずつ担当するリレー形式の講義です。前期と後期の半期課目として設定されていますが、言語研究の全体像をつかみたい方には両期の受講をお勧めします。

Ⅱ群の課目は、理論言語学の基礎課目です。「音声学」に「実験音声学」(前期)と「調音音声学」(後期)の2課目を設定しました。「実験音声学」の授業では音声分析ソフトPraatを使った実習を中心に、人間の話し言葉の特徴を客観的に捉える手法を実践的に学び、「調音音声学」の授業では国際音声記号(IPA)を用いた調音訓練を通じて、音声学の基礎を習得することを目指します。「形態論・語形成論」(前期)では、理論と実例を行き来しながら語構造の分析力を高めることを目指します。「意味論の基礎」(夏期集中)では第一線の研究者が書いた論文を読みながら、どの立場に立つにせよ意味/概念について最低限心得ておくべき問題をじっくり考え、「語用論」(後期)では、コミュニケーションにおいて、相手の意図や態度を推測する能力を「語用能力」としてとらえ、その働きや発達、障害について考察していきます。

現代の理論言語学には生成文法と認知言語学という二大潮流がありますが、これらを学ぶのがⅢ群とⅣ群の課目です。Ⅲ群の生成文法については「生成文法Ⅰ」(通年)と「生成文法Ⅱ」(後期)、「生成文法Ⅲ」(前期)の3課目を設定しました。Ⅰでは生成文法理論の言語に対する考え方、研究手法、言語の分析方法、基本的な理論的概念などを学びながら、私たちの言語はどのようなものであるのかということを考えていき、Ⅱでは生成文法理論の枠組みでどのように言語現象が記述・分析されるのかを講師のこれまでの研究を基に紹介・議論し、Ⅲでは英語と日本語を主な題材にしながら生成文法の分析方法について基本的なところから発展的な内容までを学びます。

Ⅳ群の認知言語学にも3課目用意しました。「認知言語学Ⅰ」(前期)では、認知言語学の基本的な考え方・談話分析の背景・構文理論による談話分析・通時的視点の4つのテーマを設定して最近の論点を整理しつつこれらの問題について考え、「認知言語学Ⅱ」(秋期集中)では、言語学の根本問題に対する認知文法(cognitive grammar)の考え方を多角的に検討し、「認知言語学Ⅲ」(通年)では、「日本語とはどのような言語か」という問題との取り組みを現段階の知見を踏まえてさらに確かなものにするを試みます。

Ⅴ群に属する講座として9つの課目を用意いたしました。「社会言語学」(夏期集中)では、社会的意味を軸に言語の様々な現象を解体し、「社会 socio-」を含めた言語理論の可能性までを考察することを狙いとします。「英語史入門」(後期)では1500年以上にわたる英語の歴史を概観し、現代英語が抱える様々な「なぜ?」を歴史的な視点から解き明かしていきます。「心理言語学」(前期)では生成文法理論の仮説が妥当であることを示す実際の母語獲得(特に日本語と英語の獲得)からのさまざまな証拠を議論します。言語学特殊講義の3課目では、「言語哲学」(後期)では哲学者や言語学者が問題にしてきた具体的な言語現象を通して言語哲学の基本から近年の展開まで理解を深め、「言語類型論」(夏期集中)では世界の言語の形態統語論について言語類型論的研究をもとに俯瞰的な理解を得ることを目指し、「語順選好の認知脳科学」(後期)では言語が思考を決定するのか、あるいは思考が言語を形成するのかというこの古くて新しい問題を「語順」という視点から再検討します。

Ⅴ群にはまた、日本語の文法を考察する3つの課目を設定しました。「日本語文法理論Ⅰ」(前期)では、スル、シタ、シテイルの多義の問題を丁寧に分析しながら、日本語の様々な述語の中でこれら諸形式がどのような位置を占めるかについて考えます。「日本語文法理論Ⅱ」(前期)では抽象的な形で捉えられることの多い文法形式の意味をより具体的にリアルな形で捉えることについて考え、「日本語文法理論Ⅲ」(後期)では文の形と意味が慣習的に強固に結びつきパターン化されているものを構文と呼ぶこととし、日本語の様々な文を、この構文の観点から考察していきます。

運営委員長 西村 義樹

2026年度 講座時間割

● 前期 5月11日～ 10週間（祝祭日は開講しません）

時間	月	火	水
19:00～20:40 (100分)	生成文法Ⅰ 高橋将一	認知言語学Ⅲ 池上嘉彦	形態論・語形成論 長野明子
	日本語文法理論Ⅰ 川村大	生成文法Ⅲ 岸本秀樹	心理言語学 杉崎鉦司
時間	木	金	春期講座 4/11、12 夏期集中 社会言語学 嶋田珠巳 7/31、8/1、2 言語類型論 長屋尚典 8/7、8、9 意味論の基礎 酒井智宏 8/14、15、16 秋期集中 認知言語学Ⅱ 西村義樹 10/10、11、12
19:00～20:40 (100分)	実験音声学 田嶋圭一	言語学概論	
	認知言語学Ⅰ 大堀壽夫	日本語文法理論Ⅱ 井上優	

● 後期 10月5日～ 10週間（祝祭日は開講しません）

時間	月	火	水
19:00～20:40 (100分)	生成文法Ⅰ 高橋将一	認知言語学Ⅲ 池上嘉彦	調音音声学 中川裕
	語順選好の認知脳科学 小泉政利	英語史入門 堀田隆一	言語哲学 峯島宏次
時間	木	金	●前期ガイダンス 4月18日(土) 10:00～12:15 ●後期ガイダンス 9月12日(土) 10:00～11:15
19:00～20:40 (100分)	言語学概論	日本語文法理論Ⅲ 天野みどり	
	生成文法Ⅱ 平岩健	語用論 松井智子	

※1日（19：00－20：40）に受講できるのは1課目です。

言語学概論 担当者および担当日

前期	形態論・語形成論	杉岡洋子	5/15、22
	認知言語学	大堀壽夫	5/29、6/5
	意味論・語用論	松井智子	6/12、19
	言語類型論	長屋尚典	6/26、7/3
	生成文法	高橋将一	7/10、17
後期	日本語文法理論	小柳智一	10/8、15
	心理言語学	広瀬友紀	10/22、29
	音声学・音韻論	窪園晴夫	11/5、12
	史的言語学	吉田和彦	11/19、26
	社会言語学	嶋田珠巳	12/3、10

春期講座のご案内

二日間で、受講者に現代言語学の主要な研究領域やアプローチを紹介し、魅力ある言語学の世界へ誘うことを目的としています。2026年度理論言語学講座の担当講師による講義で編成していますので、理論言語学講座を検討中の方はこの講座を受講することをお勧めしています。詳細は研究所ホームページをご覧ください。

課 目 (講師)		
〈1日目〉 4月11日(土)	1限	日本語文法理論 動詞基本形は何を表すのか (川村大)
		調音音声学 (中川裕)
	2限	社会言語学への招待 (嶋田珠巳)
		認知言語学 構文と談話 (大堀壽夫)
	3限	実験音声学 (田嶋圭一)
		意味論 (酒井智宏)
	4限	言語哲学 (峯島宏次)
		生成文法Ⅱ 生成文法理論における記述と分析 (平岩健)
〈2日目〉 4月12日(日)	1限	英語史入門 (堀田隆一)
		生成文法Ⅲ 理論の背景となる考え方 (岸本秀樹)
	2限	認知言語学 'copula' としての「ナル」とその周辺 (池上嘉彦)
		語用論 なぜ失言や誤解をしてしまうのか (松井智子)
	3限	言語類型論 日本語は珍しい言語か? (長屋尚典)
		日本語文法理論 少し変な文の意味を理解する (天野みどり)
	4限	心理言語学 はじめての言語獲得研究 (杉崎鉦司)
		形態論・語形成論 英語語形成の世界 (長野明子)

- ・ 1限 (10:00～11:20)
- ・ 2限 (11:40～13:00)
- ・ 3限 (14:00～15:20)
- ・ 4限 (15:40～17:00)

書籍のご案内

「ことばの科学」

西山佑司・杉岡洋子〔編〕

定価：本体 2,000 円 + 税



服部四郎博士の構想により、1966年に開設された東京言語研究所。2016年に開催された開設50周年記念セミナーを元に編纂しました。ことばの科学が切り開く豊かで刺激的な世界へ読者を誘い、ことばを科学することの喜びと重要性を伝えます。

第Ⅰ部 日本語はどういう言語か — 内から見た日本語, 外から見た日本語 —

影山太郎 第1章 複合語の小宇宙から日本語文法の大宇宙を探る

1. はじめに
2. 動詞領域と名詞領域に見られる膠着性の非対称性
3. 時制付きの複合動詞
4. 時制を伴わない複合述語
5. 定型と非定型の中間的な複合述語
6. まとめ

高見健一 第2章 話し手考慮の重要性と日本語 — 「～ている」と「～てある」表現を中心に —

1. はじめに
2. 「～ている」構文
3. 「～てある」構文
4. 結び

第Ⅱ部 ことばの科学 — 将来への課題 —

窪田晴夫 第3章 音韻論の課題 — 類型論的観点から見た日本語の音韻構造 —

1. はじめに
2. 母音の有標性
3. 子音の有標性
4. 音節とモーラ
5. 音節構造の有標性

三宅知宏 第4章 日本語の課題 — 「記述」と「理論」の壁を越えて —

1. はじめに
2. 現状と今後の方策
3. 事例
4. おわりに

嶋田珠巳 第5章 社会言語学の課題 — ことばの選択を考える —

1. はじめに
2. ことばの選択
3. ことばの選択をめぐる社会言語学の話
4. アイルランドの事例にみる「ことばの選択」
5. 「〈社会言語学〉将来への課題」を視野に

高橋将一 第6章 生成文法の課題 — 人間の言語機能の解明に向けて —

1. はじめに
2. 併合とその制約
3. 節減理論への経験的挑戦
4. おわりに

大堀壽夫 第7章 認知言語学の課題 — 文化解釈の沃野 —

1. 序論
2. 認知言語学の過去・現在・未来
3. 解釈的言語学
4. 文化のキーワード
5. 結論

※各講義題目の右脇の表示は、その講義題目がどの講義カテゴリーに属するかを示すものです。講義カテゴリーは受講生が本理論言語学講座の卒業要件を満たすかどうかを判定する際に用いられます。

通年講座（前期と後期でセットの講座） 時間:19:00-20:40（100分）

前期 2026年5月11日～全10回

後期 2026年10月5日～全10回（祝祭日の講義はありません）

生成文法理論を通して言語について考える

生成文法 I

生成文法入門 ㊦

人間の言語知識に対する1つのアプローチである生成文法理論では、私たちは、どの個別言語（日本語や英語）にもなりうる普遍的な言語知識を持って生まれてくると考えます。そして、生成文法研究の主要な目的は、この生得的な言語知識がどのようなものであるかを解明することです。本講座では、生成文法理論の言語に対する考え方、研究手法、言語の分析方法、基本的な理論的概念などを学びながら、私たちの言語はどのようなものであるのかということを考えていきます。今年度は、

私が書いたテキストを使用し、講義を行います。英語の方言などを含め豊富なデータに基づき、言語の抽象的計算の驚くべき特徴や、どうして言語分析においてある概念が必要なのかを説明していきます。また、時間に余裕がある限り、受講者の皆さんの興味・関心を伺いながら、テキストでは取り扱われていない言語現象についても考えていきます。言語のエレガントさや言語研究のエキサイティングさを必ず味わっていただけたと思いますので、多くの方の受講をお待ちしております。

高橋 将一
たかはし しょういち



青山学院大学文学部英米文学科教授

研究分野は、統語論、意味論、統語論と意味論のインターフェイス。2006年マサチューセッツ工科大学大学院博士課程言語学・哲学科修了、Ph.D. 業績等については、下記のホームページをご覧ください。<https://sites.google.com/view/shoichitakahashi/home>

テキスト・参考文献 下記の書籍をテキストとして使用します。高橋将一（2025）「データとともに学ぶ生成文法の基礎」開拓社（ISBN：978-4-7589-2419-1）

この課目で前提とされる知識など この課目で前提とされる知識はございません。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

現時点の認知言語学から検討、評価、そして更なる展開の可能性を探ります

認知言語学Ⅲ 「[する]と[なる]の言語学」とその周辺—共時的、通時的に、そして学際的にも 認知言語学 ④

外国語と多かれ少なかれ苦労してつき合った経験のある人なら誰しも、勉強して身につけた外国語と比べて、いつの間にか自然と身についた自分の母語とは一体どういう言語なのかと改めて考えてみたくなるはず。『[する]と[なる]の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論』と題された書物(大修館書店、1981)も、そのような問いかけから生まれたもの、現在まで18刷を重ね、今では認知言語学的な先駆的試みと受けとめられているようです。

「認知言語学Ⅲ」は分類項目の名称で、特に高度な理論を紹介すると

いったものではありません。上記の「日本語とはどのような言語か」という問題との取り組みを、現段階の知見を踏まえて、さらに確かなものにしようとする試みです。とりあげる話題については、基本的な参照資料のほかにも、そこからの新しい展開の可能性を含むような問題への言及も加えます。(例えば、名詞の複数表示から芭蕉の古池の句の英訳を経て、英語俳句、子供の俳句、そして桑原武夫の〈第二芸術論〉、言語理論における〈話者〉の位置づけをめぐるの構造言語学から変形生成文法を経て認知言語学に至るまでの流れなど。)

池上 嘉彦
いけがみ よしひこ



東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授
東京大学で英語英文学 (B.A., M.A.)、Yale 大学大学院で言語学 (M.Phil., Ph.D.) を専攻。インディアナ大学、ミュンヘン大学、ベルリン自由大学、チュービンゲン大学、北京日本学研究中心、などで客員教授、ハンブルク大学、ロンドン大学、などで客員研究員。日本認知言語学会名誉会長、日本記号学会名誉会員。

著書：『英詩の文法』(研究社)、『意味論』、『[する]と[なる]の言語学』(大修館書店)、『ことばの詩学』、『記号論への招待』(岩波書店)、『詩学と文化記号論』(講談社)、『<英文法>を考える』、『日本語と日本語論』、『ふしぎなことば・ことばのふしぎ』、『入門記号論—自然と文化を読み解く』(筑摩書房)、『英語の感覚・日本語の感覚』、『意味の世界(改版)』(NHK出版)、など。編著書：The Empire of Signs: Semiotic Essays on Japanese Culture (John Benjamins, Amsterdam)、共編著書：『自然な日本語を教えるために—認知言語学をふまえて』、『[ナル的表現]をめぐる通言語的研究』(ひつじ書房)、など。学術図書翻訳、研究論文多数。

テキスト・参考文献 上記参照

この課目で前提とされる知識など 日本語母語話者には母語について改めて考察する試みの魅力を体験してほしい。非母語話者でも、日本語への特別な関心とある程度の習熟度があれば歓迎。認知言語学の知識については、必要な場合はその都度説明します。
講義形態 事前配布のハンドアウトやパワーポイントファイルを参照しながらの講義形式が中心となります。

前期講座（半期単位で受講可能講座） 時間:19:00-20:40（100分）

2026年5月11日～全10回（祝祭日の講義はありません）

文法形式の多義の分析から文法の基本問題へ

日本語文法理論Ⅰ いわゆるテンス・アスペクトの諸問題（述定組織論1） 日本語文法理論 ㊦

個別の文法現象についてやや深く掘り下げて考えることで、文法研究の様々な面白さに出会ってまいります。今年度は、日本語の述語組織のうち、いわゆるテンス・アスペクト形式についてとりあげます。現代日本語のスル、シタ、シテイルなどの形は、時間的な意味を表し分けるテンス・アスペクト形式だとされることが多いのですが、スル、シタ、シテイルのいずれも、その表す時間的意味は1種類ではありません。その上、スル・シタは時間的意味以外の意味も表すことがあります（「どいた、どいた！」など）。こうした

事実をどのように位置付けたらよいのでしょうか。スル、シタ、シテイルの多義の問題を丁寧に分析しながら、日本語の様々な述語の中でこれら諸形式がどのような位置を占めるかについて考えます。現代語のほか、古典語の「動詞+キ・ケリ・ツ・ヌ・タリ・リ」についても論じる予定です。日本語を専攻する人はもちろん、諸言語のテンス・アスペクトに関心のある他言語専攻の人、また、テキスト言語学、認知意味論の分野に関心のある人にも役立つ内容になると思います。

川村 大

かわむら ひとし



東京外国語大学大学院・国際日本学部教授 国語学（文法、文法論）。1990年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。博士（文学）。主要著書・論文：『ラル形述語文の研究』（くろしお出版2012）、「動詞ラル形述語文と無意志自動詞述語文との連続・不連続について」（『国語と国文学』89巻11号2012）、「ラレル形述語文における自発と可能——古代語からわかること——」（『日本語学』32巻12号2013年）、「日本語のラレル文研究：対照言語学的観点の有効性と問題点から」『言語研究に潜む英語のバイアス』ひつじ書房2025）

テキスト・参考文献 主な参考文献：尾上圭介『文法と意味Ⅰ』（くろしお出版、2001）ほか。その他、講義中に適宜挙げます。
この課目で前提とされる知識など 日本語学・言語学の入門程度の知識を一応の前提とします。古文の知識は高校卒業程度の知識を求めます。ただし、できるだけわかりやすくお話ししたいと思います。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

生成文法Ⅰ

生成文法入門 ㊦

内容は通年講座を参照

高橋 将一

たかはし しょういち



青山学院大学文学部英米文学科教授

日本語と英語の文法からみる普遍文法の姿

生成文法Ⅲ

生成文法



英語と日本語を主な題材にしなが
ら、生成文法の分析方法について基
本的なところから始め、発展的な内
容までを学びます。文を構成する語
彙とはなにか、語彙を組み上げて作
る句構造、X-バー理論、意味役割
の付与、格と名詞句移動という基本
的な題材を導入し、その後、非対格
性、動詞句内主語仮説、コントロー
ルと上昇、主要部移動などのすこし
発展したトピックのいくつかを見て

いきます。講義が進んで行くにつれ
て、いろいろな意味で対照的に見え
る日本語と英語が文法の深い部分で
は共通であること、そして、異なっ
ているように見えるところは、言語
で許される変異の可能性（パラメ
ター）の違いであることが明確にな
ります。

岸本 秀樹
きしもと ひでき



神戸大学名誉教授

言語学（統語論）

主な研究課題として、語彙と句構造の研究。
主な著書『統語構造と文法関係』（2005
年、くろしお出版）『叙述と修飾』（2008
年、共著、研究社）、『ベーシック生成文
法』（2009年、ひつじ書房）、『文法現象
から捉える日本語』（2015年、開拓社）、
Handbook of Japanese Lexicon and
Word Formation（2016年、共編著 De
Gruyter Mouton）、『ベーシック語彙意味
論』（2021年、共著、ひつじ書房）、『日
本語のふしぎ発見!』（2021年、リベラ
ルアーツ出版）『文の構造と格付与』（2025
年、共著、研究社）など。

テキスト・参考文献 Hideki Kishimoto (2020) Analyzing Japanese Syntax. Tokyo: Hituzi Syobo.

この課目で前提とされる知識など 英語学／言語学入門程度の知識が必要です。

講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

認知言語学Ⅲ

認知言語学



内容は通年講座を参照

池上 嘉彦
いけがみ よしひこ



東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授

理論と実例を行き来して考える

形態論・語形成論

形態論・語形成論

語は、言語の最も基本的な単位の1つです。形態論・語形成論では、carのような単純語とcable carのような複雑語を分け、後者のように「内部構造のある語」について、それらがどのように作られるのかを詳細に検討していきます。複雑語がどのように作られるかという問いは、既存のものから新規のものを作るといった人間の創造性を問うことに他なりません。

本講義では、日英語の形態論と語形成について、理論と実例を行き来しながら考えていきます。

まず入門編として、「語とは何

か?」「屈折と派生」「複合」「その他の形態論」を概観します。その後、各論として、下のようなトピックについて講義していきます。

- ・若者ことばに見る語形成—生産性とは、創造性とは?
- ・なぜ英語では転換が盛んなのか。日本語に転換はあるか?
- ・接頭辞と接尾辞はどう違うか?
- ・日英語の複合動詞はどう違うか?
- ・英語の新古典複合語、日本語の漢語複合語、スプリンターの発生
- ・等位複合語—Dvandvaとは何か?
- ・派生接辞の競合とその解消を巡って

長野 明子
ながの あきこ



静岡県立大学大学院国際関係学研究科教授
津田塾大学大学院文学研究科後期博士課程修了。博士(文学)。専門は形態論、語形成。主要業績として、Conversion and Back-Formation in English (Kaitakusha, 2008, 市河賞受賞, 単著), 『形態論とレキシコン』(開拓社, 2020年, 共著), 『英語と日本語における等位複合語』(開拓社, 2023年, 共著), Competition in Word-Formation (Linguistik Aktuell 284, John Benjamins, 2024, coeditor) などがある。

テキスト・参考文献 購入の必要なテキストはありません。関連する文献を配布しますので、事前にそちらを読んでください。英語文献もあります。

この課目で前提とされる知識など 言語学入門程度の知識を前提とします。また、形態論分野は事例や個性を大切にします。辞書を引くのが面倒、理論だけを知りたいという人には向きません。一方、ことば自体が好きなお人には必ず面白い分野です。

講義形態 ハンドアウト(スライド)を参照しながらの講義形式が中心となります。

母語獲得研究から「こころ」にせまる

心理言語学 母語獲得研究入門

心理言語学

「こころ」(mind)のさまざまな領域について、その発達には先天的要因と後天的要因の両方が関与しており、発達はその相互作用によって説明されるべきことが明らかとなっています。生成文法と呼ばれる言語理論は、母語知識はこころの領域の一つであり、その獲得は①人間に生まれつき備わっている母語獲得のための内的メカニズムと②生後に取り込まれる言語情報との相互作用によって達成されると仮定しています。つまり、母語知識は多くの人々が素朴

に思い描いているように子どもが大人の発話を模倣することによって獲得されるのではなく、その発達の筋道と到達点が遺伝によってあらかじめ定められていると考えるのです。この授業では、この生成文法理論の仮説が妥当であることを示す実際の母語獲得(特に日本語と英語の獲得)からのさまざまな証拠を議論します。生成文法理論に基づく母語獲得研究の意義や研究方法、主な研究成果や今後の課題について、できるだけわかりやすく説明します。

テキスト・参考文献 テキスト:教科書は使用せず、ハンドアウトを配布します。

参考文献:杉崎 鈺司(2015)『はじめての言語獲得—普遍文法に基づくアプローチ』(岩波書店)

この課目で前提とされる知識など 前提知識は特に必要ありません。生成文法理論に関する基礎知識があると、理解が深まります。講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

杉崎 鈺司
すぎさき こうじ



関西学院大学文学部英米文学英語学専攻教授

生成文法理論に基づく母語獲得研究を専門にしています。主に、日本語や英語を対象に、文の構造や意味にかかわる性質の獲得について調査を行っています。2003年コネチカット大学言語学科博士課程修了(Ph.D. in Linguistics)。主要著書・論文に『はじめての言語獲得—普遍文法に基づくアプローチ』(2015年 岩波書店 日本英語学会賞)、『On the Acquisition of Prepositions and Particles』(2016年 The Oxford Handbook of Developmental Linguistics, OUP), 『言語研究の世界:生成文法からのアプローチ』(共編著 2022年 研究社)など。

音声分析ソフトを使って話し言葉を客観的に捉える

実験音声学

音声学

本講義は実験音声学への導入として、Praatというフリーの音声分析ソフトを使った実習を中心に、人間の話し言葉の特徴を客観的に捉える手法を実践的に学ぶことを目的とします。Praatには様々な機能が備わっていますが、その中でも特に中核的な機能である音声の音響分析、ラベリング、音声合成、音声知覚実験、簡単なスクリプトなどについて、

実際にPraatを操作しながら体験的に習得します。最終的には一通りの操作が自分でできるようになることを目指します。さらに、音声学の実験を行う上で心得ておくことよい事柄や、音響分析や知覚実験で得られたデータを分析するための基礎的な統計解析の手法などについても、可能な範囲で取り上げる予定です。

テキスト・参考文献 以下の書籍をテキストとして使用します。北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳（2017）『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』ひつじ書房。

この課目で前提とされる知識など PraatをインストールできるPCおよび基本的なPCスキルがあることを前提に講義を進めます。また、調音音声学の基礎知識があるとよいですが、必須ではありません。

講義形態 講義およびソフトを利用した実習を織り交ぜながら進める予定です。

田嶋 圭一 たじま けいいち



法政大学文学部心理学科教授

1968年東京都生まれ。1998年米国インディアナ大学大学院にて言語学と認知科学のPh.D.を取得。ATR人間情報通信研究所客員研究員を経て、2003年より現職に就く。2012年度米国マサチューセッツ工科大学電子工学研究所客員研究員。専門は音声学、音韻論、心理言語学。母語および外国語の音声の知覚・産出・学習に関する研究に従事。著書・論文に、「日本人英語学習者の弱母音の実現について—予備的コーパス調査—」（共著、開拓社『プロンディー研究の新展開』、2022）、「音声学・音韻論が英語教育に与える示唆」（単著、開拓社『最新言語理論を英語教育に活用する』、2012年）、「Training English listeners to perceive phonemic length contrasts in Japanese」（共著、Journal of the Acoustical Society of America, 2008）などがある。

構文理論にとって談話分析とは何だろうか

認知言語学 I 構文と談話

認知言語学

この講義では次の4つのテーマを設定します。(1) 認知言語学の基本的な考え方。「拡大された意味論」として認知言語学を位置づけ、意味への関心を起点として語彙、文法、語用論との関わりを考えます。(2) 談話分析の背景。ドイツ語圏中心のTextlinguistik、イギリスのFirth学派（生成AIの基礎理論の祖先として最近よく名前を聞きます）、および人類学、社会学、計算機科学など多くの分野の交流によって談話分析は発展してきました。その経緯をたどります。(3) 構文理論による談話分析。談話のさまざまな局面で調

整的にはたらくツールとして構文を考え、分析事例を見ていきます。フレーム意味論の観点からは、出来事の構造に関わる概念フレームだけでなく、相互行為フレームと結びついた構文に注目します。近年研究が盛んな、発話の周辺部に現れる談話標識などのはたらきも取り上げます。(4) 通時的視点。文の基本構造をなす要素の発達は文法化と呼ばれます。それでは周辺の要素の発達は同じく文法化と見なすことができるでしょうか？ 最近の論点を整理しつつ、この問題について考えます。

テキスト・参考文献 特定のテキストは使いませんが、M. ヒルパート（日本語訳 2024）『構文理論』（開拓社）は随時参照する予定です。

この課目で前提とされる知識など 言語学入門レベルの知識があることが望ましい。

講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

大堀 壽夫 おおほり としお



東京大学名誉教授

1992年UC BerkeleyよりPh.D in Linguistics。専門は意味論、機能的類型論、談話分析。論文：「類像性」（秋田喜美と共著）（池上嘉彦・山梨正明（編）2020。『認知言語学 I』）。ひつじ書房。「The structure and semantics of complex sentences」（Bentley, D. et al. (eds.) 2023. The Cambridge Handbook of Role and Reference Grammar）。Cambridge University Press。「語彙意味論の冒険」（宮代康丈・山本薫（編）2023。『言語文化とコミュニケーション』）。慶應義塾大学出版会。共訳：M. トマセロ（編）2011『認知・機能言語学』。研究社。J. テイラー。2017『メンタル・コーパス』。くろしお出版。M. ヒルパート。2024『構文理論』。開拓社。

言語研究の全体像を知る

言語学概論

言語学概論



「言語学概論」は前期と後期の2期にわたり、合計20回の講義を計10名の講師が2回(2週)ずつ分担する形で、言語研究の各分野の考え方や言語研究の面白さを解説する科目です。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両期とも受講され

ることをお勧めします。

今期は形態論・語形成論、認知言語学、意味論・語用論、言語類型論、生成文法の5分野について解説したいと思います。単位取得を希望する人は5名の講師が一題ずつ出すテーマから1つを選んでレポートを提出していただきます。

テキスト・参考文献 各講師が指定(もしくは配布)する。

この科目で前提とされる知識など ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお勧めの授業です。

講義形態 講義形式で進めます。

杉岡 洋子
すぎおか ようこ



慶応義塾大学名誉教授

シカゴ大学大学院言語学科博士課程修了(Ph.D.)
専門は語形成や語彙意味論、形態論と統語論の関係、語の処理の心的・脳内メカニズム。
主要著書・論文：『語の文法へのいざない』(共著、ひつじ書房、2024)、『語の仕組みと語形成』(共著、研究社、2002)、『名詞の意味と構文』(分担執筆、大修館、2011)、『語の処理の心的・脳内メカニズム』(共著、『形態論』、朝倉書店、2016)、Derivational affixation in the lexicon and syntax (with Takane Ito), Handbook of Japanese lexicon and word formation. Mouton de Gruyter, 2016.

プロフィール上記以外は各講師の講義欄参照

大堀 壽夫
おおほり としお
東京大学名誉教授

松井 智子
まつい ともこ
中央大学文学部教授

長屋 尚典
ながや なおのり
東京大学大学院人文社会系研究科准教授

高橋 将一
たかはし しょういち
青山学院大学文学部英米文学科教授

意味記述の「解像度」を上げる

日本語文法理論Ⅱ 文法形式の意味分析

日本語文法理論



この講義では、文法形式の意味に関する私自身の研究を紹介しながら、抽象的な形で捉えられることの多い文法形式の意味をより具体的にリアルな形で捉えることについて考えます。その際、次の3つのことを重視します。(1) 具体的な文脈における使用の自然さを考慮する。例：自分の子どもの性別は通常「女の子だ」と現在形で述べるが、生まれたばかりの子どもの性別を述べるときは「女の子だった」のように過去形が使える。(2) 他言語と比較しながら考える。例：子どもが初めて歩いているのを見た場面で、日本語では「歩いてる！」と言うが、中国語

では「在走」(歩いている)とは言わず、「会走了」(歩けるようになった)と言う。(3) ノンネイティブにも理解できる説明を考える。例：方言や外国語のモダリティ表現のニュアンスは、一見ノンネイティブには直感的に理解することが難しいように見えるが、実際はかなり分析的な形で記述できる。講義全体を通じて、意味記述の「解像度」を上げることが、文法体系を考えるうえで重要な意味を持つことを述べたいと思います。(一部、2025年度「日本語文法理論Ⅲ」と内容が重なりませぬ。)

テキスト・参考文献 ハンドアウトを配布します。参考文献もその中で紹介します。

この課目で前提とされる知識など 予備知識は必要ありません。

講義形態 ハンドアウト(スライド)を参照しながらの講義形式が中心となります。

井上 優
いのうえ まさる



日本大学文理学部教授

東京都立大学大学院人文科学研究科(国文学専攻)修士課程修了。専門は現代日本語の文法・意味(主にテンス・アスペクト・モダリティ)ですが、中国語・韓国語との対照研究もやっています。母方言である富山方言の研究もやります。著書に『日本語文法のしくみ』(2002年、研究社)、『シリーズ方言学2 方言の文法』(共著、2006年、岩波書店)、『相席で黙っていられるか一日 中言語行動比較論一』(2013年、岩波書店)があります。主な論文に「日本語と中国語の真偽疑問文」(共著、『国語学』184、1996年)、「テンス・アスペクトの比較対照—日本語・韓国語・中国語—」(共著、『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会、2002年)、「三層モデルから見た日本語と中国語の文形式の選択」(『比較・対照言語研究の新たな展開』開拓社、2022年)などがあります。

後期講座（半期単位で受講可能な講座）

2026年10月5日～全10回（祝祭日の講義はありません）

時間：19:00-20:40（100分）

人間はなぜどのような語順を好むのかについて実証的に検討する

語順選好の認知脳科学

言語学特殊講義 ㊦

ベンジャミン・リー・ウォーフとエドワード・サピアが提唱した「言語相対性仮説」は、「異なる言語を話す者は世界の捉え方も異なる」という考えに基づき、言語が思考を決定するのか、あるいは思考が言語を形成するのかという議論を長く喚起してきました。この講義では、この古くて新しい問題を「語順」という視点から再検討します。

具体的には、主語が目的語に先行する「SO語順」が、その逆の「OS語順」に比べて処理負荷が低く、人間により好まれやすいとされる通説

に着目します。しかし、従来の研究はSO言語（SO語順を文法的基本語順にもつ言語）のみを対象としており、この傾向が個別言語の文法に由来するものなのか、それとも人間に普遍的な認知特性に基づくものなのかは、必ずしも明らかではありませんでした。そこで、SO言語とOS言語を言語認知脳科学の手法を用いて比較対照することで、人間言語における語順選好の背後にある決定要因を解明し、「言語の語順」と「思考の順序」のあいだに潜む深層的な関係を探ります。

テキスト・参考文献 テキストの指定はありませんが、授業では下記の書籍および関連する原著論文に頻繁に言及します。事前に本書に目を通しておくことで、授業内容への理解がより深まると思います。

Koizumi, Masatoshi (2023). *Constituent Order in Language and Thought*. Cambridge University Press.

この課目で前提とされる知識など 言語学概論程度の予備知識を持つことが望ましい。

講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。

小泉 政利

こいずみ まさとし



東北大学大学院文学研究科教授

マサチューセッツ工科大学にて言語学の博士号（Ph.D.）を取得。専門は統語論および言語認知脳科学。理論言語学の枠組みを基礎としながら、日本語などの話者の多い言語に加えて、マヤ諸語やオーストロネシア諸語などの消滅危機言語を対象に、行動実験、脳波、脳画像法などを組み合わせた実験的研究を行ってきました。言語の多様性から人間の認知の普遍性を明らかにすることに興味を持っています。これまでの研究成果は、近著 *Constituent Order in Language and Thought* (Cambridge University Press, 2023) のほか、初期の著書 *Phrase Structure in Minimalist Syntax* (Hituzi Syobo, 1995)、ならびに *Language, Linguistic Inquiry, Journal of Cognitive Neuroscience* などの主要な国際学術誌に発表してきました。

生成文法 I

生成文法入門 ㊦

内容は通年講座を参照

高橋将一

たかはししょういち



青山学院大学文学部英米文学科教授

英語の通時的変化をテーマ別に論じる

英語史入門

史的言語学 

本講義「英語史入門」では、1500年以上にわたる英語の歴史を概観し、現代英語が抱える様々な「なぜ？」を歴史的な視点から解き明かしていきます。全10回の講義を通じ、文法、語彙、綴字・発音、英語の世界的拡大という4つの主要テーマを、それぞれ2回にわたって深く掘り下げます。

具体的には、総合的言語から分析的言語への文法構造の劇的な変化（総合から分析へ）、他言語からの借用と語形成による語彙の拡張、固定化した綴字と変化し続ける発音との間に生じた乖離、そして標準化

のプロセスと多様化する「世界英語（World Englishes）」の現状について論じます。

本講義は講義形式を中心としますが、指定テキストである堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』（研究社、2016年）を事前に熟読しておくことを強く推奨します。予習を行うことで、講義内容への理解度や復習の効率はおおいに高まります。英語という言語がたどってきたダイナミックな変化の潮流を、通時的な視点から体系的に学びましょう。

堀田 隆一
ほった りゅういち



慶應義塾大学文学部英米文学専攻教授

英国グラスゴー大学英語学研究科博士課程修了(Ph.D.取得)。専門は英語史、歴史言語学。日本英文学会第25回新人賞佳作受賞(2002年)、日本中世英語英文学会松浪奨励賞佳作受賞(2010年)、近代英語協会優秀学術奨励賞受賞(2013年)。著書に『英語史で解きほぐす英語の誤解』(中央大学出版部、2011年)、『英語の「なぜ？」に答える はじめての英語史』(研究社、2016年)、共著『英語語源ハンドブック』(研究社、2025年)、共著『言語学でスッキリ解決! 英語の「なぜ?」』(ナツメ社、2025年)などがある。「hello ~英語史ブログ」(<http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hello/>)とVoicy「英語の語源が身につくラジオ (heldio)」(<https://voicy.jp/channel/1950>)を日々更新中。

テキスト・参考文献 テキスト：堀田 隆一 『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』 研究社、2016年。

参考文献(1)：唐澤 一友・小塚 良孝・堀田 隆一 (著) 『英語語源ハンドブック』 研究社、2025年。

参考文献(2)：寺澤 芳雄 (編集主幹) 『英語語源辞典』 新装版 研究社、2024年。

この課目で前提とされる知識など 特にありませんが、事前に指定テキストを熟読しておくことにより、受講の際の理解度や復習の効率がおおいに高まりますので、推奨します。

講義形態 ハンドアウト(スライド)を参照しながらの講義形式が中心となります。

池上 嘉彦
いけがみ よしひこ



東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授

認知言語学Ⅲ

認知言語学 

内容は通年講座を参照

音声学的な知識と技能の基礎を習得する

調音音声学

音声学 水

この授業では、国際音声記号 (IPA) を用いた調音訓練を通じて、音声学の基礎を習得することを目指します。多様な言語音が音声器官によってどのように作り出されるのかを学びます。また、多様な言語音を聞き分け、発音する技能を身につけます。授業では解説を受動的に聞くだけでなく、IPA記号の手本発音を模倣し、教師からのフィードバック（正誤判断や発音補正方法）を受けることで、調音の内省能力や聞き

分け能力を向上させます。耳慣れない言語音を扱うだけでなく、馴染みのある音の微細な違いがどのように表記されるかについても学びます。IPA用語と弁別素性の用語の対応関係を理解することも目標の一つです。発音練習を助けるために、音響的特性を視覚化する方法を無料アプリケーションPraatを使って習得します。必要に応じて、パラトグラフ、X線撮影、MRI撮像などによる調音資料も活用します。

テキスト・参考文献 オリジナル講義資料を適宜配布します。

この課目で前提とされる知識など 講座開始に先立って、www.praat.org のウェブページの左上から、自分の OS に合うバージョンの Praat をダウンロードして、インストールし、起動の確認まで独力でできること。

講義形態 模倣発音の実習を交えながら講義を進めます。

言語学の視点から言語哲学を学ぶ

言語哲学

言語学特殊講義 水

言語哲学は、哲学の中でも長い伝統をもち、特にフレーゲ以降の現代哲学では重要な位置を占めてきました。例えば、「人間の思考とはどのようなものか」とか「世界には何かがあるのか」とかいった大きな問いは、人間の言語を調べることで始めて接近できると考える哲学者がいます。このような哲学へのアプローチは現在、必ずしも多くの支持を集めているわけではありませんが、今日でも言語が哲学者の主要な関心事の一つであることには変わりありません。同時に言語哲学は、言語学の中

でも特に意味論・語用論の分野と深く関係しています。言語哲学の概念や方法は、意味と指示、量化や様相といった「意味論」の周辺の話題から、話者の意図、コミュニケーションや言語行為といった「語用論」の周辺の話題まで、多様な領域で使われています。この講義では、言語哲学の問題や概念をできるだけ平易に解説し、哲学者や言語学者が問題にしてきた具体的な言語現象を通して、言語哲学の基本から近年の展開まで理解を深めたいと思います。

テキスト・参考文献 ハンドアウトを配布し、必要な参考文献は授業中に紹介します。

この課目で前提とされる知識など 哲学や言語学に関する予備知識は必要としません。幅広い関心からの参加を歓迎します。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

中川 裕
なかがわ ひろし



東京外国語大学名誉教授

専門分野: 音声学、音韻論、コイサン言語学。
主要業績は下記のページをご覧ください。

<https://researchmap.jp/nhirosi>

峯島 宏次
みねしま こうじ



慶應義塾大学文学部（哲学専攻）教授

専門は、言語哲学・意味論・語用論・論理学。
2008年慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程（哲学専攻）単位取得退学、博士（哲学）。

主要な著作に、『名詞句の世界』（共著、ひつじ書房、2013年）、『岩波講座哲学 第三巻 言語／思考の哲学』（共著、岩波書店、2009年）、『論理の哲学』（共著、講談社、2005年）、W.ライカン『言語哲学——入門から中級まで』（共訳、勁草書房、2005年）など。

言語研究の全体像を知る

言語学概論

言語学概論

「言語学概論」は前期と後期の2期にわたり、合計20回の講義を計10名の講師が2回(2週)ずつ分担する形で、言語研究の各分野の考え方と言語研究の面白さを解説する課題です。半期だけの履修も可能ですが、言語研究の全体像を理解するためにも両期とも受講されることをお勧めします。

今期は日本語文法理論、心理言語学、音声学・音韻論、史的言語学、社会言語学の5分野について解説したいと思います。単位取得を希望する人は5名の講師が一題ずつ出すテーマから1つを選んでレポートを提出していただけます。

テキスト・参考文献 各講師が指定(もしくは配布)する。

この課目で前提とされる知識など ことばに関心のある人はどなたでも受講できます。言語学を一から学びたい方、言語研究の全体像をもう一度理解したい方、大学等で言語学概論をどのように教えたらいいか模索している方に特にお勧めの授業です。

講義形態 講義形式で進めます。

小柳 智一

こやなぎ ともかず



聖心女子大学現代教養学部教授

1999年国学院大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士(文学)。

専門は日本語学、日本語文法史。

主な著作は『文法変化の研究』(くろしお出版、2018)、『認知言語学を拓く』(共著、くろしお出版、2019)、『副詞の入り口—副詞と副詞化の条件—』(執筆)、『構文と主観性』(共著、くろしお出版、2021)、『4種類の「主観」の用語法』(執筆)、『日本語と近接言語における文法化』(共著、ひつじ書房、2023)、『一から多への言語変化—類推と群化—』(執筆)、『日本語文法史と文法変化研究』(『歴史言語学』13、2024)、『鈴木敏の「コ・ロー『言語四種論』読解・続々』(『近代語研究』25、2025)など。

広瀬 友紀

ひろせ ゆき

東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻教授

1999年 The City University of New York にて Ph.D. in Linguistics 取得。心

理言語学のなかでも、特に人間の言語情報処理に関心があります。言語発達過程の子どもがどのようにその知識を運用するかにも興味があります。著書に『ちいさい言語学者の冒険』(岩波科学ライブラリー)、『子どもに学ぶ言葉の認知科学』(ちくま新書)、『ことばと算数 その間違いにはワケがある』(岩波科学ライブラリー)。

窪田 晴夫

くぼた はるお

神戸大学/国立国語研究所名誉教授

専門は音韻論、音声学。1986年英国エジンバラ大学大学院(言語学)修了(Ph.D. 1988年)。南山大学、大阪外国語大学、神戸大学で教鞭を執った後、2010年より2022年まで国立国語研究所教授。一般言語学や言語類型論の視点から日本語の音韻構造と音韻構造の普遍性・多様性を研究している。主な著書に『語形成と音韻構造』、『一般言語学から見た日本語の音声(3部作)』(くろしお出版)、『日本語の音声』、『新語はこうして作られる』、『アクセントの法則』、『数字とことばの不思議な話』(岩波書店)、『通じない日本語』(平凡)、Word and Sentence Prosody: The Endangered Dialect of Koshikijima Japanese (De Gruyter Mouton) など。

吉田 和彦

よしだ かずひこ

京都大学名誉教授

新村出記念財団代表理事。日本学士院会員。コーネル大学 Ph.D. (言語学)。言葉にかかわる問題全般に興味がありますが、特に言葉の変化に興味を寄せています。印欧系諸言語は東は中央アジア、西はアイルランドにいたる広大な地域で話されていました。それらの言語が分岐する前の印欧祖語の再建および分派諸言語の後の変化という問題に取り組んでいます。そして紀元前二千年紀に遡る古い文献記録を持つヒッタイト語などの古代アナトリア諸語が、この問題の解明に向けて重要な鍵を担っているため、アナトリア諸語を中心に据えた比較言語学的研究を世界の研究者仲間と協働しながら進めています。みなさんの関心を広げるとともに、ことばの変化に関心がある方の研究テーマが実を結ぶように、ともに学び合いたいと思います。

プロフィール上記以外は各講師の講義欄参照

嶋田 珠巳

しまだ たまみ

明海大学外国語学部教授

生成文法理論におけるデータの記述・発掘・一般化・そして分析

生成文法Ⅱ

生成文法 ⑩

生成文法理論はヒトに生得的である言語能力（特にUniversal Grammarの原理とパラメータ）の解明を目的としています。その研究は様々な自然言語のデータの記述と分析により行われます。故に生成文法理論に基づく研究においては理論と記述のバランスが極めて重要です。この講義では、生成文法理論の枠組みでどのように言語現象が記述・分析されるのかを私自身のこれまでの研究を基に紹介し、議論します。具体的には日本語のNominative-Genitive Conversion（主格属格

交替現象）、日本語と北琉球沖縄語のIndeterminate Pronouns（不定語）の統語と意味、日本語とBuli語のSluicing（疑問文縮約）、Internally-Headed Relative Clauses（主部内在型関係節）の類型論などを予定しています。生成文法＝英語学という固定観念から離れ、様々な言語における多種多様な言語現象を詳細に記述し、新たなデータを発掘し、そのデータの中に一般性を見出し、理論的に分析する楽しさと難しさを共有できればと思います。

平岩 健
ひらいわ けん



明治学院大学文学部英文学科教授

専門は理論言語学、統語論、フィールド言語学に基づく理論研究。Ph.D. in Linguistics (MIT, 2005). New York University言語学科でのポストドクの後、University of Victoria言語学科で教鞭を執り現職。The origin and architecture of existential indeterminates in Okinawan (Proc. of LSA, 2020), Internally headed relative clause. (Wiley Blackwell Companion to Syntax, 2016), The faculty of language integrates the two core systems of number (Frontiers in Psychology: Language Science, 2016)など。

テキスト・参考文献 テキストは使用しません。論文等は初回講義時に指示します。

この課目で前提とされる知識など 生成文法の基礎的な知識（生成文法Ⅰに相当する知識とその発展的知識）を前提とします。受講生のバックグラウンドを見ながら工夫する予定です。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となりますが、質問に応じて内容を掘り下げて行きますので、是非積極的に質問をしていただければと思います。

少し逸脱的な文を理解するしくみを考える

日本語文法理論Ⅲ 現代日本語の構文 日本語文法理論 金

日本語学分野における構文研究は「文とは何か」を追究することから発展し、文の階層構造が明らかにされました。その延長で、「～られる」構文や「～である」構文、「～は～が～」構文など、興味深い種々の構文が次々と分析されてきました。他方、近年では、文の形と意味が慣習的に強固に結びつき、ゲシュタルト性を持つものを構文と呼び、文全体の意味が構成要素の総和では得られないことが明らかにされるようになりました。

本講義では、文の形と意味が慣習的に強固に結びつきパターン化されて

いるものを構文と呼ぶこととし、日本語の様々な文を、この構文の観点から考察していきます。考察の根拠として重要な、実際に用いられる文の観察、内省による容認度調査、使用頻度調査等を、受講生の皆さんとともに進めながら、考察対象の構文の意味、特徴、他の構文との関係性、使用場面・媒体・文脈との関係性、慣習からの逸脱と意味の拡張などを明らかにしていきたいと思っております。日本語学分野の文法論研究の方法を批判的に吟味しながら、今後の研究に必要な基盤を、皆さんとともに築いていければ幸いです。

テキスト・参考文献 講義はハンドアウトを用います。参考文献は授業内で示します。

この課目で前提とされる知識など 特にありません。

授業形態 講義に加え、様々な課題に対する受講生の解答をとりあげ、考察を深める予定です。

相手が見えないコミュニケーションはなぜ難しいのか

語用論 語用論の基礎から応用まで 語用論 金

語用論は、会話を中心とした日常的なコミュニケーションのメカニズムを研究する学問分野です。私たちが会話で使われる言葉の意味を解釈するときや、また会話の中で言葉になっていないメッセージを汲み取る際には、相手の「意図」や「態度」といった、目には見えない心の状態を推し量ることが鍵になります。この講義では、コミュニケーションにおいて、相手の意図や態度を推測する能力を「語用能力」としてとらえます。そしてその働きや発達、障害について考察していきます。さらにSNSでのやりとりや、広告やコマー

シャルには、メッセージの送り手が見えにくいという特徴があります。そのような状況では、聞き手は相手の言いたいことを誤解したり、独りよがりの解釈をしたりすることが少なからずあります。つまりメッセージの送り手が見えないコミュニケーションにおいては、聞き手が送り手の真意を正しく把握することが難しくなりがちです。この授業では、関連性理論に基づいて、それはなぜなのか、考えていきます。

テキスト・参考文献 テキスト：今井邦彦編「最新語用論入門12章」大修館 2009年

参考文献：Tanaka, K. 1999. Advertising Language: A Pragmatic Approach to Advertisements in Britain and Japan. Routledge.

この課目で前提とされる知識など 特にありません。

講義形態 講義に加え、ワークシートやグループセッションも予定しています。

天野みどり

あまの



大妻女子大学文学部日本文学科教授

少し変な感じがする文との出会いによって、私たちが身につけている文法的知識の存在に気づかされ、さらにその知識を駆使して新たな言語表現を生み出す人間の創造性に驚かされます。言語を使用する人間を背後に感じながら、日本語文法論を主な研究領域として現代日本語を研究しています。筑波大学博士課程大学院文芸言語研究科、その後、同大学より博士号（言語学）取得。新潟大学、和光大学を経て、現在大妻女子大学文学部教授。単著『日本語の逸脱文一枠からはみ出た型破りな文法一』（教養検定会議、2023）、『日本語構文の意味と類推拡張』（笠間書院、2011）、『文の理解と意味の創造』（笠間書院、2002）、共編著『構文の意味と拡がり』（くろしお出版、2017）、『構文と主観性』（くろしお出版、2021）、最近の論文として「構文とジャンル特性」『日本語文法研究の射程—テキスト・文体・文学との交差—』（近藤泰弘・澤田淳編、開拓社、2025）など。

松井 智子

まつい ともこ

中央大学文学部教授

ロンドン大学ユニバーシティカレッジ文学部言語学科博士課程修了（PhD）。著書に『バイリンガルの壁』（岩波新書2025年）、『子どものうそ、大人の皮肉』（岩波書店2013年）、Bridging and Relevance (John Benjamins2000年市河賞)、『ことばのやりとり』（分担執筆、朝倉書店2024年）、『言語発達障害学第3版』（分担執筆、医学書院2022年）、『ミス・コミュニケーション』（分担執筆、ナカニシヤ2011年）、『ソーシャルプレインズ』（分担執筆、東京大学出版会2009年）などがある。

理論言語学講座 夏期集中・秋期集中

※100分×10コマの講義の時間数を3日間で変則的に組み込みます。
時間割が決まり次第、研究所公式サイト等でお知らせいたします。

社会的意味から言語の様々な現象に迫る

7月31-8月2日

社会言語学

社会言語学

言語の研究に「社会」を入れた視点はどのように活かせるでしょうか。本講義においては、社会言語学において主要な3つ、speech, variation, language contact に関して、基礎的な概念や考え方を解説し、様々な研究を紹介しながら考察します。

今回、講義の大きな軸にするのは、社会的意味 (social meaning)。一つには言語形式の社会的意味、もう一つには言語ないし言語変種の社会的意味。社会的意味を軸に言語の様々な現象を解体し、「社会 socio-」を含めた言語理論の可能性までを考察することが狙いです。

微視的な言語変化、言語接触による文法形成、言語選択、言語交替、コードスイッチング、談話分析、言語使用とアイデンティティ、言語とナショナリズム、言語政策、言語教育などが話題に上ります。

本講座は夏期集中講義で行い、時間の半分くらいを社会的意味に関連した論文や図書からの抜粋を読むことに充てます。資料は受講生の確定後（開講日の2週間前頃）にお渡しする予定です。言語学が初めてという方々から研究されている方々までを想定して、インタラクティブに講義します。

テキスト・参考文献 資料を用意します。参考文献は講義内で紹介します。嶋田珠巳 著『英語という選択—アイルランドの今』(岩波書店) を読んでおかれると、授業をより楽しんでいただけたと思います。

この課目で前提とされる知識など 特にありません。ディスカッションも含めて、あらたな知のきっかけになるかもしれません。

講義形態 講義演習方式で進めます。

対面 + オンライン (予定)

嶋田 珠巳
しまだ たまみ



明海大学外国語学部教授

京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻言語学専修博士後期課程修了 (2007年)。博士 (文学)。著書に『英語という選択—アイルランドの今』(岩波書店 2016年)、共編著に『言語接触—英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』(東京大学出版会 2019年)、『時間と言語』(三省堂 2021年)、共著書に『時間はなぜあるのか?—チンパンジー学者と言語学者の探検』(ミネルヴァ書房 2022年)、論文に "Speakers' awareness and the use of 'do be' vs. 'be after' in Hiberno-English", World Englishes 35, 2016年など。研究テーマは「言語知識と言語変化—アイルランド英語使用データに基づく社会的意味形成の理論と検証」と「言語による時間生成」。

世界の言語の文法を理解する

8月7日-9日

言語類型論 形態統語論

言語学特殊講義

世界には7,000を超える言語が存在すると言われ、その構造は大きく異なる一方で似ているところもあります。言語類型論とはそのような多様性と共通性を、世界の言語の特徴を比較することによって明らかにしようとする言語学の実証的分野です。その成果を学ぶことは、人間言語についての我々の理解を深めるだけでなく、個別言語を分析する際にも役に立ちます。

この講義では、世界の言語の形態統語論について言語類型論的研究をもとに俯瞰的な理解を得ることを目指します。扱う内容は、受講者の関

心や進度による部分もありますが、以下を考えています。

- 節構造
- アラインメント
- 文法関係（主語、目的語など）
- ヴォイス
- テンス・アスペクト・ムード
- 性・定性・類別詞
- 複雑述語と節連結
- 情報構造

想定している受講者としては、世界の言語の多様性に興味がある方から実際に個別言語の研究をしている方までです。さまざまなバックグラウンドを持つ受講者を歓迎します。

テキスト・参考文献 参考文献として Croft, William. 2022. Morphosyntax: Constructions of the World's Languages. Cambridge: Cambridge University Press. などに随時言及します。

この課目で前提とされる知識など 形態論・統語論にかかわる基礎的な知識があることが望ましいですが、補足しながら授業を進めます。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

対面 + オンライン（予定）

長屋 尚典
ながや なおのり



東京大学大学院人文社会系研究科准教授

PhD in Linguistics (Rice University, 2011)

フィリピンやインドネシアで話されるオーストロネシア諸語を中心に言語類型論の観点から研究しています。最近の共編著に『言語研究に潜む英語のバイアス』（ひつじ書房、2025）、最近書いた論文に "Motion event descriptions in Tagalog" (Motion Event Descriptions from a Crosslinguistic perspective, 2025) があります。

note (<https://note.com/norinagaya/>) で言語学に関する記事も書いています。

「意味」の意味を掘り下げる

8月14日-16日

意味論 意味論の基礎

意味論

意味論は理論言語学の中で一番とっつきやすい分野に見えて実は一番とっつきにくい分野です。その理由の一つは、形式意味論、語彙意味論、認知意味論、etc. という分野があるのに対して、たんなる「意味論」という分野がないことにあります。これは「意味」という語が本質的に多義であることの反映です。意味を考えるためには「意味」の意味も考えなければなりません。

「英語 'cat' は猫という意味を表す」の「意味」を「概念」に置き換えても何も変わらないように見えます。「意味」と「概念」は同じ意味 / 概念を表すのでしょうか。「概念」の

概念についても考えなければなりません。多義語（複数の意味をもつ語）は全体として一つの意味を表すのでしょうか。答えがイエスなら意味と概念は別物ということになり、ノーなら多義と同音異義（例：英語 bank）の区別を再考する必要があります。

この講義では、第一線の研究者が書いた論文を読みながら、どの立場に立つにせよ意味 / 概念について最低限心得ておくべき問題をじっくり考えてみましょう。継続して受講する方にとっても今回から新たに受講する方にとっても等しく有意義な講義となるように努めます。

テキスト・参考文献 プリントを配布します。参考文献は授業中に紹介します。

この課目で前提とされる知識など 予備知識は必要ありません。

講義形態 ハンドアウト（スライド）を参照しながらの講義形式が中心となります。

対面 + オンライン（予定）

酒井 智宏
さかい ともひろ



早稲田大学文学学術院教授

意味論、語用論

2003年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）

2004年パリ第8大学大学院言語学専攻博士課程修了、Docteur en Sciences du Langage

主要著作：Semantic Externalism and Cognitive Linguistics（単著、早稲田大学出版社、2024）

原典の精読を通して認知文法の本質に迫る

10月10日-12日

認知言語学Ⅱ Langacker を読む

認知言語学

この講義では、「言語（表現）の意味とは何か」、「文法は意味とどのように関係しているのか」、「語彙と文法はいかなる関係にあるのか」、「そもそも文法（的な知識の単位）は何のためにあるのか」、「言語の使用を可能にする知識とはいかなるものか」等の言語学の根本問題に対する認知文法 (cognitive grammar) の考え方を、この理論の創始者 Ronald W. Langacker の著作を深く正確に読み解くことを通して、多角的に検討します。

今年度の具体的な内容は未定ですが、昨年度までに受講してください

た方々からのさまざまな反応を踏まえて、認知文法の全体像を正しく把握していただくこととそれに役立つ（主として英語と日本語の）現象の具体的な分析の紹介に注力することになると思います。また、私自身のこれまでの研究について昨年度より詳しく系統的にお話しできたらと考えています。

英語が専門でない人にも原典に真剣に取り組むことの意義と楽しさを十分に共有していただけるように努力します。

対面 オンライン

西村 義樹
にしむら よしき



東京大学教授 (2026年3月まで)

専門は認知言語学、意味論、日英語対照研究。

1989年東京大学大学院人文科学研究科博士課程(英語英米文学専攻)中退。

『構文と事象構造』(共著、研究社、1998)、『認知言語学Ⅰ：事象構造』(編著、東京大学出版会、2002)、『明解言語学辞典』(共編著、三省堂、2015)、『日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ：生成文法・認知言語学と日本語学』(共編著、開拓社、2016)、『メンタル・コーパス：母語話者の頭の中には何があるのか』(共編訳、くろしお出版、2017)、『認知文法論Ⅱ』(編著、大修館書店、2018)、『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』(共編著、開拓社、2019)、『認知言語学を拓く』、『認知言語学を紡ぐ』(いずれも共編著、くろしお出版、2019)など。

テキスト・参考文献 参考文献と授業で参照するテキストは受講者と事前に共有します。

この課目で前提とされる知識など 西村義樹・野矢茂樹著『言語学の教室』(中央公論新社)には目を通しておくことをお勧めします。

講義形態 講義が中心ですが、質問やコメントを受ける時間、および課題について議論する機会を設ける予定です。